

知恵の樹

112号

2006.7.19



読み聞かせを二倍楽しむための学習会 地域の文庫「柿の木文庫」をたずねて

鶴川第二小学校 読み聞かせの会 篠田由貴

鶴川第二小学校での朝の読み聞かせ活動もすっかり定着し、子どもたちも、保護者も、朝のふれあいの時間をとても楽しみにしている。

しかし、一方、だれもが多かれ少なかれ、自分の読み聞かせについて迷ったり悩んだりしているのではないだろうか。

「今日読んだ本はよかったのかしら?」「学年が進んできて、どんな本を読むのがいいのだろうか?」こんなつぶやきも聞こえてきた。

そこで読み聞かせの時間をもっと充実させるために長くお話会をされている方の経験や考えを聞く機会を持ったらどうか、と企画されたのが、この学習会である。

幸い、当地鶴川には20年以上の実践を積まれている柿の木文庫さんがあり、快く協力してくださることになった。

5月26日、うす曇りの天気の中、27人の保護者が集った。柿の木文庫の方々、近隣の小学校で活動されている方をあわせると、40人も大きな集まりとなった。読み聞かせを介し、多くの大人が手を携え、子どもたちを育もうとの話のあと、さっそく柿の木文庫さんによるおはなし会が始まった。

演目は「マーシャとくま」「たらばがにのはる」「でてこい でてこい」の3つである。お話してくださる方はいつものかわいい子どもたちと勝手が違うと少し困惑しながらも、それぞれの個性を感じさせてくださるすばらしいおはなしを披露して下さった。観ているほうもどンドン子どものような気分になり、ただ

ただおはなしに引き込まれた。こんな経験こそ、あとあと自分を高める原動力となるのではないだろうか。

次に、柿の木文庫の方のお名前を紹介、同時にご自身の大好きな本を教えていただいた。一冊にはとても決められない、とその場でさらに迷っている姿に、なんとも嬉しくなってしまった。この本のここが好きなんです、と語ってくださるときの表情がきらきらとしていた。自分たちもそんな本に出会いたいと思って聞いた方も多いただろう。

小学校での読み聞かせの様子を笑いをふくめて話していただいたり、2つのグループに分かれて、自分たちが日ごろ迷ったり考えたりしていることを出し合ったりした。若い世代の保護者ほど人と意見を交わす経験が少ないのではないかと危惧している。真剣に話し合う関係を築くのが難しい。そんな中、子どもたちのことを本を通じてきちんとした話ができる、このことの意味はとても大きいと思う。

またこの学習会で子どもの学年が違うお母さんたちと出会えたことも嬉しいことである。少しずつでもこのつながりを大切にしていけたらと願っている。

最後になりましたが、この会をよりよいものにしようとしてご尽力いただいた柿の木文庫のみなさま、ありがとうございます。心よりお礼申し上げます。(しのだ ゆき)

記録映画上映「たまはがね 子どもがひらいた古代製鉄の道」

(民族文化映像研究所製作：85分)



& 姫田忠義監督を囲んでの談話会

共催：町田の図書館活動をすすめる会

野津田雑木林の会

後援：町田市教育委員会

5月14日（日）13時～16時 会場：町田市立中央図書館6F ホール

上映作品は<越前平野の山地の裾にある小学校の子どもたちが、生まれ育ったふるさとの川から砂鉄を集め、古代の製鉄方法で直径数ミリの銀白色に輝く鉄の粒『たまはがね』を取り出した>作業の記録です。校長の呼びかけで自由参加の形態で子どもたちが取り組んだ作業ですが、父兄の大人たちが協力し、PTAの活動の場にもなった一部始終が克明に記録されています。



今回、主催者の私たちは、この企画に先だって行った野外での炭やき「伏せ焼き・穴焼きの実践」（前111号参照）と上映作品を関連づけて“火”について語り合いたいと考えていました。（映画の中には、炉内の温度を調節するために風の送り口を閉じたり開けたりしながら送風量と温度の関係を探っていく子どもの姿もあり、「すごいな」を感じさせられるのです）。

ところが、当日は、映画の中に登場する大人の姿のすばらしさの方に話題が盛り上がりました。「こういう大人がいることに感動しました」と。

それを受けて姫田監督は「越前というところは“匠の里”なんですよね。様々な手の技が伝わっている。金もうけの話をしているのではなく、人間の感性の世界。全体を包む人間の在り方を大事にしている側面がありますね」

「(映画の)最後に、校長が子どもに『ありがとう』と言っていますが、教育者の真髄だと思いますね」

「いっぺんにあれだけの子どもたちが動いた

のではありません。それぞれ、関心の持ち方が違う。担任の声のかけ具合 — あの人の存在は大きいと思いますね」等々。

当日の参加者は約30名。主催団体の会員が主でしたが「生きていく力というものが、何か、切り離されていく中で、どうやってそれをとりもどしていったらいいのか」という質問には「これは結論ではないが…ひとつ言えるかなと思うのは、自然との対応感覚というものを可能な限りよみがえらせることですね。体験の場を開いていく—それは先に立っている大人の使命でしょうね。結果として伝えようとするのも大事だが、子どもたちに『おもしろい』と思ってもらえる伝え方—そういう風に考えることが、僕は楽しいな」と答えていただきました。

「人と自然連続講座」は、いま教育現場に関わる方々に交わっていただいて、より深めて見たい内容となりました。

(久保 礼子)

2006年度 総会 報告

5月20日(土) 13:50～14:30
中央図書館6F 中会議室にて/出席者7名

【議 題】

(1) 2005年度 活動報告

- ① 会主催のつどい及び講演会を実施
 - ・5/29: 小・中学校図書館の現状についての意見交換 16名参加
 - ・3/19: 講演会「弾き語りと朗読 子どもの十字軍」一鷺さん・茂呂久美子さん 45名参加
- ② 会紹介の新リーフレット作成(活動報告を毎年書き換える形)
- ③ 教育部長との懇談・市議会議員(吉村さん)との懇談
- ④ 連続講座(6回)実施。
 - ・11/5 ノンフィクション
 - ・11/12 著作権
 - ・12/4 中学校の図書館紹介
 - ・1/21 本の修復
 - ・1/28 ブックトーク
 - ・2/11 交流会



(2) 2005年度 決算報告(省略)

2006年度

(3) 役員選出

出席者少数の為、保留。

正式決定まで、前年度役員が継続。

代表: 水越規容子

副代表: 小林陽子・市川博子

会計: 芦田美佐子 会計監査: 清水陽子

(4) 活動計画

- ① 会の輪を広げる
(PTAなどの場で、存在をアピール)
- ② 講座の実施(図書館協賛にして、図書館から広報するなどの効率的な広報方法を考える)
- ③ 行政への働きかけ
- ④ 他市との交流(見学: 連続講座に組み込むもの

可・勉強会: 分担して参加・報告)

- ⑤ 講演会(計画的に早い時期に)
- (6) 予算(2006年4/1～2007年3/31) <省略>
<質問・意見など>

① 会報誌について: 通信費と原稿依頼が大変で05年度は出せなかった。『知恵の樹』にそのつど報告を載せているのでなるべくそちらを読んでもらうことに。会の活動をアピールするためには、なるべく復活の方向で考えていく。

② 『ぱっちわーく』について

『ぱっちわーく』の購読方法: 希望者にはメール便等を利用して回すことにする。その後は定例会などで回覧。

③ 勉強会出席などの交通費について: 会の代表として参加した勉強会の際の交通費については、資料を持ち帰る・報告をするなどを条件に支給することにする。(市川)

定例会(2か月分をまとめて報告します)

〇5月定例会(5/20) 14:30～16:20

出席: 芦田・市川・清水・谷藤・土屋・伴・水越

(1) 持ち寄った図書館でのアイデア紹介。

・古いカレンダーを利用したの卓上日捲り方式の本の紹介

・学校図書館便りの拡大コピーを掲示ポスターに

・本の帯を貼ってコメントをつけた、本の紹介

(2) 定例会前半分の日程を決定

場所は公民館6階無料相談コーナー/予約不要・変更可能なことから。

6/14(水) 18:30～

7/12(水) 10:00～

8/30(水) 午後(終了後、納涼会)

(3) 講座の内容を検討

●お知らせ

ネットから市議会議員となった吉村こずえさん(元学校図書館を考える会会員)が学校図書館に大きな関心をお持ちだということから、会員の中西さん(元市議会議員)・伴さんの橋渡しで懇談を持ちました(5月6日、伴・水越・谷釜参加)。

この詳細は後述。

○6月定例会 14日(水) 18時半～21時
公民館6階にて

出席：小寺、清水、谷釜、伴、水越

(1) 6月11日行われた「開こう！ 学校図書館」
の報告と感想 ー谷釜さんよりー

午前中の山口氏の「教育基本法と学校図書館」については資料のみ。

午後の松岡氏の「政府の図書館施策を考える」では図書館政策関連法などを幅広く引用して、地方分権型社会の創造を謳いながらも実は官治主義の方向を強めている現状分析と、住民のための図書館を創造する取り組みの必要性が訴えられた。

20分という短い時間での講演で、早口でさ～っと話され、なんだかよくわからなかった、という感想ももれ聞こえたそう。

実践報告は

・東大和文庫連から：現在東大和市では15校中6校に臨時職員として学校司書を配置済み、今後3年間で全校配置の予定。配置に至る経緯では文庫連の活動が大きく影響しており、現在も司書の活動を側面からバックアップするよい支援の体勢ができているとのこと。残念なことに町田での文庫連は閉会になっており、地域や保護者を巻き込んだ運動の持続の必要を改めて感じた。

・荒川区司書教諭から：荒川区ではここ数年動きが活発で、学校司書もようやく33校中4校に配置、今後増やす方針。授業での図書館の利用などが報告されたが、そうした実践に敏感に区教委が反応した結果だろう。前年度学校図書館の蔵書を一斉に調査した結果、文科省図書標準にとうてい及びもつかないことが明らかになるや、今年度中に100%達成せよとのお達しが区長より下り？ 驚くなかれ1000万円の図書購入費がついた中学校もあるという。ところが司書の配置は進んでいないので、購入図書の選定ができない、受入できないといった悲鳴も聞かれるようだ。図書館を整備するには順序が大切とは山本さんの弁、その通り。それにしても1000万円とはいわないから、400万円ぐらいは欲しい。

町田のどの学校も今すぐ購入したい本がそのくらいはあるのではないだろうか・・・。

(2) 6月27日図書指導員および図書ボランティアのための研修会(中央図書館主催 ホールにて)

図書館主導による研修会の実現で大変喜ばしい。大きな前進だと思う。学校図書館整備の方法や子どもたちに本を手渡す際の心構えや効果的な方法について、実践的なアイデアも含めて北村さんよりお話された。新しく指導員になった人にとってこのような企画はとても心強いし、長く関わっている人にとっても自分のやり方を検証し、見直すいいきっかけになると思う。今後もぜひ継続・発展していくことを期待したい。教員への参加を呼びかけてほしいとの意見もあり。

学校図書館の問題は学校だけのものではなく、公共図書館が積極的にバックアップしなければならない時期に来ていることは誰も否定しない。先の東大和市でも年に数回、市教委指導課・市立図書館・学校司書が集まる懇談会が開かれ、その結果がいろいろな協力関係に反映している。町田でも将来的に市内全校と図書館とを結ぶネットワークの構築は必至であり、そのためにも3者(私としてはここに当然司書教諭も含む)の懇談会・意見交換は必要と思う。その伏線にもなりうる市立図書館からの働きかけ、大歓迎です。

(3) 町田では図書指導員が配置されて5年(モデル校7年)が経つが、経つほどに学校間格差も明らかになりつつある。たとえば分類の仕方や配架の仕方、また購入図書選定の仕方など。町田市独自の学校図書館整備基本マニュアルのようなものが必要なのではないか。特に新しく指導員になった人には必要。充実検討委員会の構想の何一つ実現していない事などを考えると、市教委との懇談会をお願いしようということになった。昨年度は教員の参加はなかったので、今年度はぜひ教員にも一緒に参加してもらえるように日時を設定したい。(水越)

次回定例会は7月12日(水) 午前10時。

8月30日午後 ～ 納涼会へ

6月9日の市議会にて生活者ネットの吉村こずえ議員より「学校図書館、図書指導員の課題について問う」と題する一般質問が行われました。議事録はまだ公開されていませんが、部分的な要約をお届けします。1時間に及ぶ質問と答弁で急ぎ要約しましたのでかなり不十分ですので、申し訳ありませんが細部についてお聞きになりたい方は以下のサイトへアクセスしてください。(水越)

町田市議会 平成18年度第二回定例会

http://www.gikai-machida.jp/live/f_live.html

「学校図書館、図書指導員の課題について問う」

質問者：吉村こずえ議員

<吉村>

人が生き生きとした人生を送るには、子ども時代の読書が欠かす事のできない重要な要素としてある。町田では1999年に市内6校をモデル校として図書指導員がはじめて置かれてから今年で8年目となり、その間には2001年に全校配置、また2003年には司書教諭の発令などが行われた。学校図書館が整備され児童・生徒の利用も高まり、一定の成果があったものと評価はしているが、しかし町田市立図書館協議会が2004年におこなった「市立図書館の学校図書館支援のあり方についての提言」などを読むと、いくつかの課題が浮上してくる。



- ・図書指導員の全校配置から5年を経過した今、市長ならびに教育長はどのように評価しているか
- ・学校図書館がより充

実していくためにはそこに関わる人の質的向上と情報交換が必須であり、図書指導員および司書教諭の研修のあり方はどうなっているのか

- ・パソコン管理システムとそのネットワーク化については計画はあるのか
- ・市立図書館の団体貸出の物流システムについてはどうか

<教育長>

前掲の市立図書館協議会の提言を読むと、いずれの学校においても図書館の利用状況は大きく向上しており有効に活用されているものと認識している。指導員ならびに司書教諭の研修については今年度2回(各1回)を予定している。指導員向けの研修は5月に既に行った。

<吉村>

確かに初期の目的は達成されたかと思う。しかしいくつかの学校図書館を視察したのだが、新しい本が少なくまた蔵書不足が見られること、指導員によって学校間格差が生まれていることなどが感じられる。すべての児童・生徒が等しく読書の喜びを享受するためには、学校図書館を一定水準に引き上げる努力が今必要なのではないかと。町田では市民の運動が引っ張ってきた経緯があり、行政や市立図書館の積極的な取り組みが必要と思う。

研修についても、実は欠席する人も多いと聞いている。学校長から出ても出なくてもいい、といわれているところもある。これではとてもレベルアップには繋がらないのではないかと。

司書教諭の現状についても前掲の「提言」の中に、司書教諭としての仕事できていないと答えた割合が非常に多く、司書教諭が十分に活動できていない現状が見て取れる。

<教育長>

夏に司書教諭の研修を計画しているが、こちらに指導員の希望者の参加を認めるつもりであり、またそこで司書教諭と指導員の交流の場を作る方向で今検討している。研修を増やす事については今年度中は難しいが、今後の課題として検討していきたい。

<吉村>

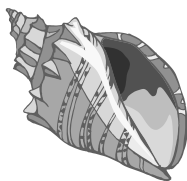
ぜひ学期に1度程度の研修の機会を作るようお願いしたい。

「提言」の中の指導員の回答に「指導員としての活動が十分にできていない」と答えた人がおり、その理由として「仕事がわからない」「教員の協力がない」「研修がない」「待遇が不十分」などが挙げられている。5年を経過して「わからない」と答え

た人が1人でもいるのは、指導不足と捉えられても致し方ないのではないかと。ぜひ活動の手引き・マニュアルのようなものを作ってほしい。

<教育長>

いつまでにはお答えできないが、なるべく早くそのようなものを作成する方向でいきたい。



<教育部長>

パソコン管理システムについては、つくし野小と鶴川中で導入済みだが、全校に広げる必要は認識しているものの、入力対応や人的配置などの問題もあり早急な実施は難しいと考えている。学校間は2005年度にランで結ばれているが、今また新たにここに学校図書館を結ぶネットワークを構築することは財政的に難しい。

<生涯学習部長>

団体貸出については物流のあり方について検討中。メール便を使うことは重くなってしまい難しい。そよかぜ号の利用も空き時間がほとんどなく難しい。場合によっては宅急便などを利用するなどの方法が考えられるので、現在検討中である。

<吉村>

小・中一貫カリキュラムの作成を予定とあるが、このこととあわせ、そうした学校には専門・専任の

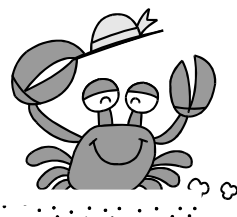
学校司書を入れるお考えはないのか。

<教育長>

今のところ専門・専任の学校司書を入れる考えはない。

質疑は55分の長丁場に及ぶものでかなり食い下がった質問でしたが、残念ながらほとんど現状維持の回答にばかりです。ただ昨年市立図書館協議会で作成した提言が多く引用され、議員の間にもあまり知られていないこの提言が有効に利用されたことは喜ばしいことでした。唯一成果としてあるのは、司書教諭対象の研修会に今年度から図書指導員の参加も認められたことでしょうか。多くの学校から要望として挙げられている団体貸出の物流などについては進展は見られず、検討課題として残されました。これにめげず、これからも訴え続けていかなければならないと感じました。吉村議員にも引き続きご協力をいただくとともに、他の議員にも働きかけを強めていきたいと思います。皆様のご協力を重ねておねがいいたします。

(水越)



町田市立図書館協議会より

今期町田市立図書館協議会では、特に情報サービス拠点としての役割をより一層市民に広めご理解いただくために、市民向け講座をいくつか提案中です。それに先立ち5月30日、和光大学梅根記念図書館を5人の委員で見学しました。広い図書館内をゆっくり見学させていただきだけでなく、学生向けに行われている情報検索ガイダンスも体験させていただき、大変参考になりました。つづいて6月30日の定例委員会を地域館見学とし、4時間あまりをかけてすべての地域館を回ることができました。東西に長い町田市ゆえ1館あたりに割ける時間が十分だったとはいえませんが、委員がすべての地域館を見学できたことで、共通認識を持って新たな視点からこれからの図書館運営について検討を加えることができそうです。様々な制約の中でそれぞれの地域館が創意工夫を凝らし、市民サービスに努めている様子が窺えました。これらの地域館の特色や独自性を尊重しつつ、さらに発展した市民サービスのあり方を探っていきたいと考えます。(水越)



ひろば



26日(金) 13:00~16:30

於・中央図書館中集会室
会報 NO. 111 の折込作業~例会

出席	市川	伊藤	片岡	川野
	久保	中山	増山	桃澤

- 会報について
- 「人と自然…」連続講座の報告(久保さん)
- 南成瀬小学校の学童保育「宝島」について
- 図書館協議会の報告(久保さん)
 - * 市民文学館「ことばらんど」オープンについて
 - * 一般市民に向けて図書館についての学習会を提案する・・・パソコンの使い方について、レファレンスについて
 - * 和光大学の図書館を6月に見学
- 「とこれん」(としよかん・こども・おはなしでつなぐ連絡会の略)についての説明(増山)

「前回例会で“とこれん”のことが話題になり、その実態を誰も知らなかったことから、図書館協議会で質問をしてもらったところ、児童担当者よりお話がありました。としよかん、というネーミングから図書館が掌握しているものと思いましたが、そうではないとのこと。毎年図書館の「おはなしボランティア養成講座」終了時に、修了生全員参加のグループが誕生するようになっており(どこからか一職員の発案だとも漏れ聞こえてきましたが・・・?)、今では6つか7つ小さなグループができており、そのグループの連絡会名だとの事でした。増山からは、図書館ボランティア修了書発行の持つ意味について、また今後、図書館のおはなし会をよりレベルアップするために、ボランティアの研修及び連携をどのように考えておられるのかを訊ね、忌憚なく話し合うことができました」
- 学校図書館を考える会より(市川/p3~6参照)
 - ・総会は会員6名だったので、後半は集いを変更して定例会に。
- 大蔵小学校で読み聞かせをしている父母の方が、30名ほど柿の木文庫で学習会開催。(巻頭言)
- 5/30にかえて文庫「文部科学大臣表彰」受賞を喜念して、文庫でささやかな祝賀会を催す。

会員及び原稿募集! 図書館の発展を願って活動しています。会費は年間千円。是非お仲間に。

○その他

- ・パレスチナの映画「アルナの子どもたち」と、パレスチナ問題についての資料を持ってきてくださり情報提供をしてくださる。(片岡さん)
 - ・広島、長崎の被爆者1千人の肉声を記録してきた長崎県内の元放送局記者伊藤明彦さん(調布市在住)が、その中からえり抜いた284人の証言を時系列にCD9枚に編集、そのセットを片岡さんが購入したので、希望者には貸し出ししますとのこと。片岡さん(796-6367)まで。
 - ・映画「白バラの祈り」(1943年、誰もが恐怖に身をすくめていた時代に、若きドイツ人のグループ「白バラ」が、「打倒ヒトラー!」の文字を町中の壁に書き、郵便やビラで国民に「自由」を呼びかけた。その中の紅1点ミュンヘン大学の女子学生ゾフィーは、壮絶な勇気を持って仲間を守り、人々が忘れかけていた良心を守り通すために命をかけ、捕まり、処刑される。独裁を防ぐには、多くの市民の勇気と粘り強い抵抗が不可欠だということが、メッセージとして伝わってくる)についての紹介と、その「白バラ」のパネル展を町田で開催出来ればいいな、という提案が、川野さんより出ました。すすめる会だけではなく、平和運動をしている人とタイアップすればどうかという話になり、前向きに取り組むことに。
 - ・図書館とは何かを改めて学びたい。世の中が危険な方向に動いている社会状況の中で、図書館の持つ役割は非常に重要なおおきいのでは。
 - 野津田雑木林の会/ひも結び・いろいろ体験/講師:(しぜんタイムスで“ちょっと昔のはなし”を伺っている)田極武さん/目的にあったさまざまなひもの結び方を教えてください/参加費200円/持ち物:弁当、敷物
(問:久保 ☎&FAX 045-961-5045)
 - 今後の例会は、9/21(木)、11/30(木)、12/21(木)、1/26(金)、2/22(木)、3/23(金)、
・8月は例会・会報共々お休みです。
- お知らせ**
- ★第23回東京「読書の学校」
共に支えあう学校図書館~読書の世界
8月22日(火) 13:20~16:40
国立オリンピック記念青少年総合センター102
(<http://nyo.niye.go.jp>/参照) / 狛江市の学校図書館(丸山英子さん)、「読書へいざなう語りかけ」(安井悟さん) / 1200円
(問い: 図書館の学校事務局 ☎03-3943-0666)

★学校図書館のつどい

9月16日(土) 10:00~16:00

場所:貸会議室「内海」3F会議室(JR水道橋駅西口徒歩2分) / 講演「子どもたちの学びと読書活動を保障する学校図書館」塩見昇氏 / 実践報告「東大和市の学校図書館での司書の実践」岡田貴子さん、「学校図書館に人を求めて」諸山朝子さん / 1000円(問い・申し込み:日本子どもの本研究会 ☎03-3943-0666)

★講演会「フィンランドの教育と子どもの読書環境について」福田誠治氏(都留文科大学教授) / 9月30日(土) 14:00~ / 川崎市中小企業・婦人会館 / 主催:川崎の「生きた学校図書館をめざす会」 / 問い:船橋佳子

★東久留米在住絵本作家田畑精一氏講演会 7月25日(火) 10:30~12:00 / 東久留米市立中央図書館視聴覚ホール(無料) / 7月22日~27日(24日は休み)絵本展を開催 / 主催:東久留米地域文庫親子読書連絡会 (問:042-477-7890 松原)

★町田市立図書館「第15回ヤングアダルト展」作品募集! / 応募資格:中学生から20歳くらいまでの利用者 / 募集期間:~8/4(金) / 出品作品は、イラスト・写真・立体・その他素材、色、内容、応募点数などはすべて自由。応募多数の場合は、図書館側で展示作品を決め、8/8(火)~9/3(日)まで中央図書館展示コーナーにて展示。中・高生の皆さんどしどしご応募を! 詳細は中央図書館ヤングアダルト担当者(0427-728-8220)まで

★まちだ語り手の会主催3つ

場所:町田市民フォーラム

▶「渡部豊子さんの昔話を聞く会」

8月5日(土)13:30~15:00 / 昔話を聞いて育った山形の語り手・渡部さんに、たっぷり、新庄の昔を語っていただきます。 / 和室 500円

▶夏のおはなし会「自由と平和」

8月27日(日)13:30~15:00 / 和室 500円

・「人間だって空を飛べる」

・「あいたかったよ」

・「あるハンノキの話」、他

▶語りとインディアンフルーツのジョイントコンサート

「ジャンピングマウス」&北山耕平氏のお話

9月23日(土)18:00~ / ホール 2000円

<申し込み受付中>

(問:事務局 ☎&FAX 042-795-3016 市川

makatari@at-duplex.bias.ne.jp)

夏休み特別企画 / 虫好きな子、集まれ~!

スライド上映とお話

「樹液をめぐる昆虫たち」

講師:矢島稔さん

(「夏休み子どもラジオ相談室」でおなじみ昆虫学者) 虫について何でも質問してみよう!

8月8日(火)13:30~16:00

中央図書館6Fホール

<無料>

主催:野津田雑木林の会・草花遊びの会

協力:町田市立図書館

町田の図書館活動をすすめる会

(問い合わせ / ☎&FAX 045-961-5045 久保)



★男女平等推進センター講演会

「よりよい人間関係をめざしてーコミュニケーションの視点から考えるー」 / 講師:荒木晶子さん(桜美林大学文学部言語コミュニケーション学科教授) / 8月2日(水)10:00~12:00 / 町田市民フォーラム3Fホール / (申し込み:25日までに町田市コールセンター ☎042-724-5656へ)

★「さるびあフェスタ2006」

ーわくわく・ドキドキ・あそびいっぱいー

9月17日(日)10:00~16:00 / 会場:町田市民ホール / 町田市・町田市教育委員会、(財)町田市文化・国際交流財団主催 / 町田市子どもマスタープランの一環として親子連れを対象に市民ホールを借り切って昨年からはまったもので、各会場にはさまざまな楽しいイベントが一杯。第5会議室は、図書館による「絵本ワールド」の会場。昨年に引き続き、まちだ語り手の会が協力し、訪れた親子連れに絵本を読んだり、紙芝居をしたり、手遊びやわらべうたを楽しんだり、おはなしを語ったりします。昨年は、お父さんとの親子連れも多く、子育ての良き変容が感じられるフェスタでした。一日家族連れで、ゆっくり遊びに来てください。

あとがき 「良心の自由と子どもたち」(岩波新書)には、2つの心の教育議論(目標・内容・方法によって全く違った内容になる)、①自分らしい心のあり方を見つけることを目指した教育(心の多様性)、②今の社会を生きる日本人としてのモラルとルールを重要視する(上のものに従いなさいという)一元性の教育、を明確に示している。今、国旗・君が代問題が取りざたされているのも、②の教育の方向性が強くなってきたからだろう。全児童に配布の「心のノート」が何を意味するのかもその線上に。基本的人権の中の「思想・良心の自由」をどう解釈するかは大きな問題である。(M')